

2008年7月7日

## G8 洞爺湖サミットに対する声明（日英両文）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目5番4号末広ビル5階

T/F : 03(3595)1171 E-mail : [info@jwcs.org](mailto:info@jwcs.org)

Web : <http://www.jwcs.org/>

特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会 (JWCS)

(国際自然保護連合 (IUCN) 会員)

会長 小原秀雄

(女子栄養大学名誉教授)

JWCS は6月5日の世界環境デーに際し、IUCN、UNEP 等からの当会会長への呼びかけに応じ、以下のとおり、日英文での声明を発表しました。

「私たち JWCS は、日本の小さな野生生物保全、自然保護団体です。今回は日本政府及び政策関連諸団体やマスコミが、地球温暖化をめぐるアピールしています。その事態に関連して **World Environmental Day Public** コメントを発表します。

世界の野生生物の現状は、1972年のUNEPを成立させた地球サミット以来、全体としては退潮し続けています。

現状はIUCNのレッドリストで知るとおりです。地球温暖化など、自然の変化が自然界を構成する野生生物を指標として現れています。

しかし日本政府は自然の保全を表明しながら、野生生物の保全については無策です。それどころか捕鯨や象牙利用を推進しています。捕鯨では公海での活動の維持増大をめざし「科学的」と宣伝しています。世界の野生生物の保全が地球の自然環境の保全に深く関係するので、利用政策の転換を訴え、国の政策に反映されるよう求めます。」

当会の理事会は、各領域の生物学者、それ以外の自然科学者および人文科学等の科学者から成り、(Watch Dog として) 地球の自然を保全するための警告を発し続けていきたいと念じています。

この度のサミットは日本政府がホストです。人類の環境・資源の基盤でもある地球の自然の保全の必要性は共通理解であり、先進諸国はこの状況への先進

的対応を具体的行動の形で求められています。

野生動物は生物界を成し自然生態系を構成する進化と変化の指標でもあります。日本政府はこの地球の危機に際して、言葉だけでなく外洋生態系での捕鯨をやめ、象牙をはじめ野生生物製品の取引増勢を促すような行動を抑制するよう具体的行動をとることを求めます。

以上